

## 研究主題「我が国の音楽のよさや美しさを感じ取る児童の育成」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
あきる野市立前田小学校 教諭 鈴木 竜也

### 第1 研究のねらい

改正教育基本法を踏まえ、中央教育審議会答申に「我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする」と示された。「東京都教育ビジョン(第2次)」(平成20年5月)においても、「日本の伝統・文化理解教育の推進として、我が国や郷土の歴史を踏まえた発達段階に応じた系統的なカリキュラム開発・作成を行うとともに、(中略)我が国や郷土の伝統や文化、歴史の理解の教育を推進する」ことが示されている。

しかし、平成18年東京都教育委員会「日本の伝統・文化理解教育推進会議報告書」によると、家庭や地域社会で児童・生徒が伝統や文化について経験する機会が少ないことが指摘されている。また、各教科等で日本の伝統・文化についての学習の多くが、単発的・断片的に扱われ、体系的に取り上げられることが少ないと述べられている。

そこで、日本の伝統・文化に関わる指導内容を教育課程に明確に位置付け、計画的・系統的に実施していかなければならない現状を踏まえ、本研究では、我が国の音楽の特性を視点とした、発達段階に応じた系統的なカリキュラムを開発し、それに基づいた実践により、我が国の音楽のよさや美しさを感じ取る児童を育成することをねらいとする。

### 第2 研究の内容と方法

#### 1 研究の内容と方法

基礎研究	調査研究	開発研究	実践研究
1 先行研究により、我が国の音楽の指導に関する課題を捉えた 2 先行研究及び文献によって、我が国の音楽の特性や、我が国の音楽のよさや美しさについて分析をした	1 我が国の音楽に関わる指導の実態と課題の把握のために、都内公立小学校音楽科専科教諭を対象にアンケート調査を実施した	1 「我が国の音楽の特性表」の開発をした 2 「我が国の音楽の特性表」を活用した題材指導計画の作成をした 3 我が国の音楽の指導に関わる系統表の作成をした	1 「我が国の音楽の特性表」を活用した題材指導計画による検証授業を行った

#### 2 基礎研究

音楽科の改善の基本方針に、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成が一層重視された。そこで、我が国の音楽のよさや美しさを感じ取る児童を育成する系統的なカリキュラムを開発するために、学習指導要領に示された〔共通事項〕と関連させて、我が国の音楽の特性を示すものが必要であると考えた。

そこで、我が国の音楽やその指導に関わる文献及び先行研究の分析を行い、考察した。

##### (1) 我が国の音楽の特性について

先行研究等から、音楽の構造原理は、「音・音量の変化」「音と音との時間的な関係」「音の連なりや織り成す関係」「音楽の組み立て方」に分類され、これが〔共通事項〕と関連していること、音楽はその国や地域の言葉や生活を背景に発展してきたことから、「言葉や言語」は重要視されていることが分かった。

一方、我が国の音楽の特徴について、伊野氏の文献等によれば、「日本の自然や風土・言語等

の中で育まれた我が国の伝統的な音感覚」「日本語の抑揚や呼吸に影響を受けた旋律や音階、拍、リズム」「箏や尺八に見られる<sup>そうおん</sup>噪音など、音や音色・響き」「我が国の音楽に特徴的にみられる序破急や音頭一同形式、問答形式」等にまとめられている。これらは、〔共通事項〕に示されている、リズムや旋律等の言葉からだけでは、内容を想起することが難しい。

そこで、我が国の音楽の特徴について分析し、〔共通事項〕と関連付け、「我が国の音楽の特性表」としてまとめていく。このことによって、音楽の特徴を知覚・感受させる視点が明らかとなった。また、〔共通事項〕と我が国の音楽の特性との関係性が明らかとなるとともに、系統的な指導も可能となると考えた。

## (2) 我が国の音楽のよさや美しさについて

我が国の音楽のよさや美しさについて、先行研究や文献においては、明確に定義されたものが見当たらなかったが、中学校学習指導要領解説音楽編(平成20年8月)には、「音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさや繊細さなどを感じ取ることは、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことにつながっていくと考えられる」と示されている。

このことから本研究では、我が国の音楽のよさや美しさ感じ取るとは、我が国の音楽の特性を知覚し、我が国の音楽の特性の働きが醸し出す特質や雰囲気を感じ取ることにした。

## 3 調査研究

都内公立小学校音楽専科教諭84名を対象に、各校における平成22年度の年間指導計画に位置付けている我が国の音楽の指導について、調査を行った。

和楽器の演奏については約7割が実践しているが、日本語の抑揚を生かした言葉遊び・音楽づくりや、拍節的なリズム、拍節的でないリズムの比較聴取などの音楽活動は約3割を下回っている。

このように和楽器に触れる体験はしているが、我が国の音楽を形づくっている要素を支えとした実践は十分とはいえない。

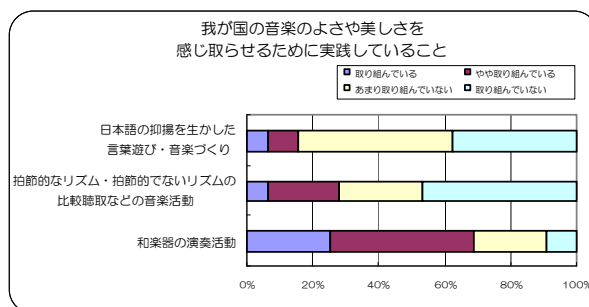


図1 我が国の音楽のよさや美しさの知覚・感受に関わる実践

また、自由記述によると「我が国の音楽の系統的・具体的な指導法が分からない」「我が国の音楽に関わる知識・経験が不足している」等が挙げられている。

## 4 開発研究

### (1) 「我が国の音楽の特性表」の開発

基礎研究で明らかにした、我が国の音楽の特徴について、音楽の構造原理のまとめりと〔共通事項〕事項アに対応させ、発達段階に応じた系統的な指導を見通し、我が国の音楽の特性と共に、主な学習内容、学習活動、教材を示し、「我が国の音楽の特性表」を開発した。

我が国の音楽を授業に取り入れるために、「我が国の音楽の特性表」を年間指導計画や題材指導計画の作成の際に活用し、我が国の音楽のよさや美しさを知覚・感受できる児童を育成する。

表1 「我が国の音楽の特性表」(一部抜粋)

音楽の構造原理と〔共通事項〕	我が国の音楽の主な特徴	段階	我が国の音楽の特性と主な学習内容、学習活動、教材
言葉や言語 リズム ・拍や拍子、リズムパターンとその反復や変化、問いと答え、拍節的なリズムや拍節的でないリズム、間 旋律 ・我が国や諸外国の音楽に使われている様々な音や音階	日本語固有の響き ・日本語特有の響きと共有されるイメージが存在する 言葉の抑揚を生かした旋律 ・歌詞のついた日本のふしは、言葉の抑揚に影響を受けている	段階 小学校 低学年	言葉のリズム 簡単な言葉を使ってリズム遊びをすることで、わらべうたなどの我が国の音楽にみられるリズムの面白さを感じ取る 主な教材：名前遊び、言葉遊び 言葉の抑揚 簡単な言葉(単語)をつかって音楽づくりをすることで、日本語のもつ抑揚のよさや美しさを感じ取る 主な教材：言葉遊び

## (2) 「我が国の音楽の特性表」を活用した題材指導計画の作成

「我が国の音楽の特性表」に示した我が国の音楽の特徴や〔共通事項〕、主な学習内容、学習活動等を学習指導案に位置付ける。また、「我が国の音楽の特性表」の我が国の音楽の特性欄等を参考に、評価規準を設定する。

指導にあたっては、「我が国の音楽の特性表」の我が国の音楽の主な特徴欄に示されている内容を確認することで、中学校の指導内容等を意識した系統的でよりねらいを明確にした指導が可能になると考える。

## 5 実践研究

### (1) 検証授業の実施

「我が国の音楽の特性表」を基に題材指導計画を作成し、都内公立小学校の第2学年2学級において、我が国の音楽の特性の言葉のリズムや言葉の抑揚を視点を検証授業を実施した。

表2 検証授業の内容

1	題材名「わらべうたのしくみをつかって音楽をつくろう」		
2	題材の目標 わらべうたを特徴付けている要素や仕組みを知覚し、それを基に、自分なりのリズムや旋律をつくることを通して、我が国の音楽のよさや美しさを感じ取る。		
3	改訂された学習指導要領との関連 【A表現：音楽づくり】 (3)イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。 【共通事項】 ア(ア)リズム、旋律 (イ)反復、問いと答え		
4	我が国の音楽の特性との関連（我が国の音楽の特性表を参照） 言葉のリズム・言葉の抑揚		
5	題材の指導計画と評価計画（3時間扱い）（一部抜粋）		
時	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準[評価方法]
第1次：わらべうたの特徴である、問いと答えの仕組み(問答形式)を知る			
第1時	○ わらべうたを特徴付けている仕組み「反復」「問いと答え」に気付く ・ 《あなたがたどこさ》や《ひらいたひらいた》の歌詞を読んだり歌ったり遊んだりする 【問いと答え（問答形式）】	歌や遊びの中から、 <u>問いと答え</u> に気付くよう、二つのグループに分かれて、歌い合わせる	ア-① わらべうたに興味・関心をもち、楽しく活動している [発言や行動観察] イ-① 反復や問いと答えの仕組みに気付いている [発言][音楽ノート]
第2次：問いと答え、わらべうたを構成する音などの仕組みを使って表現することで、我が国の音楽のよさや美しさを感じ取る			
第2時	○ わらべうたを特徴付けている要素や仕組みを基に、音楽づくりをする ・ 反復、問いと答え、わらべうたを特徴付けるリズムを使って、簡単なリズムをつくる 【言葉のリズム】	<u>わらべうたの特徴的なリズム</u> を提示する	イ-② わらべうたの特徴的なリズムの働きが生み出す面白さを感じ取りながら簡単なリズムづくりを工夫している [演奏の聴取][音楽ノート]
第3時	○ わらべうたを特徴付けている要素や仕組みを基に、音楽づくりをする ・ 反復、問いと答え、わらべうたを構成する音を使って簡単な旋律をつくる 【言葉の抑揚】	<u>わらべうたを構成する音</u> を用いる	ウ-① 言葉の抑揚を基に、「反復」「問いと答え」の仕組みを使って、簡単な旋律をつくっている [演奏の聴取][音楽ノート][ワークシート]

検証授業では、児童が我が国の音楽の特性を知覚・感受する力を育成するために、音楽ノートを活用した。音楽ノートは、我が国の音楽の特性について知覚・感受したことを、毎時間継続して記録するものである。

児童が我が国の音楽の特性に対する自分の感じ方を振り返ることで、我が国の音楽のよさや美しさを感じ取ることに繋がると考える。

## (2) 検証授業の分析及び考察

検証授業において、児童の行動観察及び音楽ノートの記述より、我が国の音楽の特性の知覚・感受の変容について分析を行った。

図2は、「歌でお話ができることが分かりました」「言葉の上がり下がりを使って、かんたんに歌ができました」などといった、言葉のリズムや言葉の抑揚に関する記述がみられた児童の割合を示したものである。

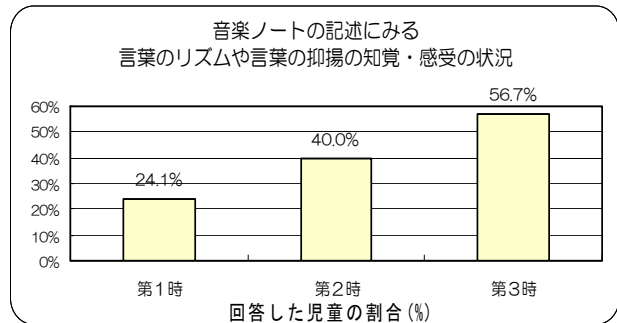


図2 言葉のリズムや言葉の抑揚の知覚・感受の状況

授業を重ねるとともに、我が国の音楽の特性である言葉のリズムや言葉の抑揚を、知覚・感受している児童の割合がおよそ2割弱ずつ上がっている。このことは、表3にあるA児の音楽ノートからも分かるように、学習を積み重ねるごとに、我が国の音楽の特性に関わる記述がより明確に見られるようになるなど、我が国の音楽の特性を感じ取っている様子を読み取ることができた。

表3 検証授業におけるA児の音楽ノートの記述の変容及び考察

	第1時	第2時	第3時
音楽ノートの記述から分かるA児の変容	わらべうたが <u>お話みたい</u> になっています。	いろいろなリズムをつかって、 <u>としかけとおへんじになるように</u> つくっておもしろかったです。	思ったより <u>かんたんに</u> つくることができました。おへんじは、ことばの数が多すぎると、うまくメロディが歌えないことも分かりました。
教師の考察	「お話みたい」という表現は、わらべうたを特徴付けている仕組みの「問いと答え」に気付いたと考えられる。	わらべうたを特徴付けている仕組みである問答形式や、わらべうたを特徴付けている要素である特徴的なリズムを理解していると考えられる。	我々が感性としてもっている音感覚を基盤としたことによって、2年生の児童でも、旋律を容易につくることができた。 また、第2時のリズムづくりに加え、拍にのったふしづくりへ発展し、試行錯誤したことによる満足した姿がみられた。

## 第3 研究の成果

「我が国の音楽の特性表」を活用することで、児童にとって我が国の音楽の特性の知覚・感受させる視点が明確となった。

このことは、我が国の音楽を基盤とした系統的で具体的な指導を可能にするとともに、音楽ノートやワークシートなどの作成や活用についても一貫性をもたせることができた。

また、我が国の音楽の特性に基づいた指導は、我々が感性としてもっている音感覚を基盤としていることから、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを感じ取りやすいことが分かった。

## 第4 今後の課題

- 「我が国の音楽の特性表」を活用して、我が国の音楽の特性を知覚・感受する系統的な年間指導計画を作成し、授業実践を行いながら、「我が国の音楽の特性表」の改善を図る。
- 題材によっては、題材のねらいを達成するために選択する教材について、西洋音楽の技法に基づいた教材を、我が国の音楽に基づいた教材へ置き換えた実践を進める。
- 各教科における日本の伝統・文化に関わる指導と音楽科との関連を図り、発展的な指導を進める。